

カギカズラの花が咲きました

令和元年7月5日

森林バイオ研究センターでは、漢方薬や医薬品製造の原料となる薬用系機能性樹木の増殖技術の開発に取り組んでいます。

カギカズラやワダツミノキ等の薬用系機能性樹木について、組織培養により増やした苗を林木育種センターの温室で育成しており、6月下旬にそのうちの一つのカギカズラが球状の可愛い花をつけました。

カギカズラはアカネ科のつる性樹木で、名前に「カギ」があるとおり枝の節に鉤爪のような構造があり、このカギを他の樹木に引っかけて上へと成長していきます。このカギを含む枝には精神の高ぶりを鎮める効果があるとされ、チョウトウコウと呼ばれる生薬として利用されています。

チョウトウコウは、現在中国からの輸入にすべて依存していることから、国産カギカズラの栽培と新たな用途の開拓をめざして優良株の選抜とその増殖技術を開発しています。

※参考 森林総合研究所が2019年3月に作成した「森林産業実用化カタログ 2019」の38ページの上段に「薬用樹木カギカズラの増殖と栽培技術の開発」を掲載しております（次のページ参照）。

「森林産業実用化カタログ 2019」

<https://www.ffpri.affrc.go.jp/sangakukan/catalog/documents/catalog2019.pdf>

（ファイル容量が17Mあります）



上写真
カギカズラの花
左写真
「カギ」の部分
(花とは別個体：
撮影場所 高知県いの町)

技術の特徴

つる性の樹木であるカギカズラを原料とする生薬「チョウトウコウ」は認知症周辺症状の抑制効果などが期待される漢方薬に配合されています。国産カギカズラの栽培に向けて、薬用成分の含有率を明らかにするとともに、組織培養やさし木による苗木の増殖方法の開発、組織培養苗の栽培試験を行いました。また、優良個体の選抜を目指し、個体別の成長や薬用成分の評価を行うとともに、生薬以外の新たな利用方法の開発を行っています。



図 1 カギカズラの栽培試験（上）と生薬「チョウトウコウ」（下）

カギカズラのつるを水平に誘引すると垂直に誘引する場合に比べて側枝の収穫量が多くなりました。

カギカズラのトゲを付けた側枝が生薬となります。

連携の方向

国産カギカズラ利用拡大のため、栽培、収穫作業の効率化や新たな商品開発と販売を行う事業者との連携を目指しています。

担当者

森林バイオ研究センター・谷口亨

技術の詳細

- ・論文・総説等 林木育種センターパンフレット 13 <<https://www.ffpri.affrc.go.jp/ftbc/documents/panfu201805.pdf>>、森林総合研究所研究成果選集 2017, 44-45 (2017)、関東森林研究, 66, 99-100 (2015)、鹿児島県森林技術総合センター研究報告, 19, 14-20 (2018)

